

留学体験レポート

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：2015092

中村 匠

中国は日本よりも何倍も大きい国土を有しており、かつすべてが一様ではなく例えば南方の南国の気候をもつ土地や北方の川が凍ってしまうほどの寒い気候の土地、一面の広大な砂漠が広がっている土地など同じ国のなかで様々な特色を持ち合わせているのが中国という国の特徴の一つだと言える。私は今回の留学を通してその広大な中国国内の旅行を行ったのでここにその旅行のうち内モンゴル、天津、ハルビンに行った時の体験を書く。

まず内モンゴルでの旅行について記す。内モンゴルには10月に行き2泊三日で行き移動はバスで行われた。1日目は北京市内からバスで6時間ほどの移動をし内モンゴルの大草原に到着した。そこでは乗馬体験をしたり、モンゴル相撲に参加したりした。夕食の際には子牛の丸焼を食べながら内モンゴルに住む中国少数民族のひとつモンゴル族の方たちの遠方から来た客人をもてなす最高の儀式である“銀碗哈达献歌敬酒”を鑑賞した。夜はモンゴル族伝統のゲルと呼ばれる大型のテントで就寝した。2日目は少し南下し内モンゴルの西部に広がる広大なグブチ砂漠を観光した。砂漠では世界一長いといわれるケーブルカーに乗って砂漠の中心まで移動し、そこでラクダの乗馬体験や砂丘をそりですべり下りたりして楽しんだ。

三日目はさらに南下し崖の側面に立つ寺院に行ったり、内モンゴルで最も大きい総合博物館に行った。内モンゴルは大きめの省なので省内だけでも多くの観光地が存在し大変楽しい旅行となった。

次に天津での旅行について記す。天津には11月に高速鉄道を利用し日帰りの旅行で行った。天津では駅の目の前にある大きな時計台や中国の昔のつくりの建物が並ぶ“古風街”、イタリア人の租界地であったため建物が洋風のつくりになっている“意風街”などを観光した。天津は食の街であるためと肉汁たっぷりの肉まん、包子や大きなかりんとうのような菓子パンの麻花楼、赤や緑、青などカラフルなジャムがかかった一口サイズのケーキの熟梨子糕など多くのグルメを食べることができる。また天津は多くのヨーロッパの国の大使館が存在したため洋風の建築物も多く東洋と西洋が融合したような街並みを見ることができた。

最後にハルビン旅行について記す。ハルビンには1月に1泊二日の日程で寝台列車を利用して行った。一日目は級地館という水族館に行きアシカや白イルカのショーを見た。特に白イルカのショーは巨大の水槽の中で音と光とともに行われ非常に迫力があつた。夜は有名なハルビン氷祭りを観光した。そこでは氷で作られた巨大な建造物がカラフル

なライトアップとともに立ち並びその中をトナカイの引くそりにのって移動したり、すべてが氷でできたバーで飲み物を飲んだ。ライトアップされた建造物はとても幻想的で寒さを忘れるほど美しかった。二日目はハルビンで最もにぎやかな通りである中央大通りに行きそこでアイスや紅場と呼ばれるスパイシーな味付けのフランクフルトなどのグルメを食べたり通りの近くにある大きな凍結した川の上でスケートを楽しんだり、白い狐と記念写真を撮ったりした。またハルビンはロシアの植民地であったため今でも看板にロシア語が書かれていたりお土産屋にもロシアの菓子などが多く並んでいる

今回自分が旅行で行った場所は三か所ともまったく別の特色を持ち国内にいながらまるで世界旅行に行ったような気分になることができた。しかし中国内には自分の行ったことのない土地が多くあるので次回中国を訪れる際はさらに多くの土地を訪れてみたい。